

【特等席】—辞書によると、特別に優れた等級の席。(比喩的に)もっともよい場所。もっとも好きな場所。

サッカー観戦でいうとゴール裏、野球でいうとバックネット裏やそれぞれのチームのベンチ上。楽しみ方は人それぞれですが、憧れの選手のプレーをより間近で見られたり、応援出来る場所は人気も高く、正に特等席のように思えます。

一方選手側はどうでしょう。単に眺めだけで考えると、ゴールキーパーやキャッチャー、センターのポジションは眺めが良さそうです。チームスポーツの場合は、出場人数やポジションが当然決まっているため、広く言えば、フィールドそのものが特別な場所なのかもしれません。実際には各々自分のポジションから見える光景が慣れ親しんだものであり、思い入れもあることでしょう。

住宅の特等席はどこだろうか？

住宅のご相談の際、「子どもがどこにいてもキッチンから見えるようにしたい。」という声はよく耳にする。ご要望の一つに感じます。子どもの様子を伺いつつも、朝食を作り、洗濯機を回し、自分の身支度までこなす。

キッチンが各家庭の中心的位置づけになることが多いため、最近はお家でも、キッチンに立つと部屋全体が見渡せるようになっており、そのお家の特別な場所なのかもしれません。

ただ、住宅設計する者として、単にそれだけで特等席とは呼びたくないのです。

住宅には効率も大切ですが、同じ位、もしくはそれ以上に、安らぎ・くつろぎが求められるため、そうした要素を加えてあげたいと考えます。

例えばリビングの子どもの様子を見る際、一緒に庭や町の緑が

## 特等席。

zuiun便り vol.39

見えたら素敵ですよ。日常の忙しさが時に紛れ、癒やされるはず。天気や季節の移ろいなど、外の変化に気づく心の余裕も生まれるかもしれません。

TV好きのご主人にとっては、正面のソファが特等席なのかもしれません。それだけではやっぱり物足りず、何か他の要素を追加してあげたい。

ソファに腰掛け、ふとTVから視線を外すと、窓から切り取ったかのような空が見え、住宅街に位置していることを一時でも忘れさせたり。

ちょっとした事かもしれませんが、特等席にはこれくらい当たり前にして差し上げたいもの。勿論、籠れる書齋や趣味コーナー、子どもたちにとっては秘密基地のようなロフトがその人にとって寛げる空間ならば、そこがお気軽に入りの場所であってほしいと思う。

これからお家を建てられるご予定の方は色々とお覧会を回る際、そのお家の特等席がどこにあるかを是非探してみてください。

お家には安らぎなどを求めるだけでなく、愛着も持つて欲しい。先に挙げた事は設計者が提供できるものですが、愛着はこちらから提供してなかなか湧くものではなく、できるとすれば、住み手にもその工事に携わって頂くことは一つ有効な方法なのかもしれません。

例えば、どこか室内の壁をご家族で仕上げ塗りしたならば、ふと見た時にその時の事を思い出して、家族の会話になったり。単なる壁にもストーリーが生まれ、自然と愛着が湧く。ストーリーのあるお家ほど魅力的なお家はないと思います。

毎日過ごす場所、本来一番身近なものだからこそ、お気に入りの日用品のように愛着を持って暮らしてもらいたいですね。